

2011^{/6}
2016^{/5}

5 Years Report

Beyond the border

ラオスの貧困層向け小児病院を運営するNGOにて、団体の幹部スタッフ(中央)と打ち合わせをする
日立製作所の留職者(右)とクロスフィールズのプロジェクトマネージャー(左)

創業から5年。
多くの方々に支えられながら
ここまで歩んでこれました。

2011- 2016
5
years

2011年5月3日にたった2人で始めたクロスフィールズは、様々な方々のサポートを受けながら、留職事業を中心に活動を広げることができました。2016年には節目となる100人目の留職者を送り出したクロスフィールズは、これからも皆様の応援を力に変えながら、社会に対して全力で価値を届けていきたいと思います。




CROSS FIELDS

2011年7月、団体ロゴも決定して
クロスフィールズがいよいよ船出。

OUR VISION

- ・すべての人が、「働くこと」を通じて、想い・情熱を実現することのできる世界
- ・企業・行政・NPOがパートナーとなり、次々と社会の課題を解決している世界

OUR MISSION

- ・社会の未来と組織の未来を切り拓くリーダーを創ること

CROSS FIELDS WAY

- ① 未来を切り拓く先駆者
- ② 情熱とプロフェッショナリズムの両立
- ③ 企業とNPO、それぞれに寄り添う
- ④ 信頼を共感で築く
- ⑤ 人の可能性を信じ、挑戦を応援
- ⑥ 感動とわくわく感こそがエネルギー
- ⑦ 個を活かし、チームとして最高を創る
- ⑧ 前向きさを武器にした上昇集団
- ⑨ 働く仲間の幸せを思いやる

2016.7

留職プログラム派遣者100名突破。
留職プログラムの派遣者が100名の大台を突破。
これまでの参加企業数は28社、派遣先団体は66団体となる。



2016.5

NGO/社会的企業向けの取り組みに着手。
インドネシアの社会的企業のメンバーを日本へと招聘し、
視察や情報発信をサポート。NGO/社会的企業のニーズに
直接向き合う事業へと着手。

2015.6

オフィス移転。常勤職員10人体制へ。
常勤職員が10名を超え、現在のオフィスへと移転。新オフィスでは社会的企業の事業者向けシェアオフィスを開始。

2014.11

日本的人事部「HRアワード」優秀賞を受賞。

2014.10

CSV*フォーラムを開催。

デロイトトーマツコンサルティングとともにCSVイノベーションフォーラムを共催。企業の経営企画部門向けアプローチを開始。
※Creating Shared Value

2014.9

国内留職プログラムを開始。

これまで新興国で実施してきた留職を日本国内の社会課題解決の現場で展開。第1弾として、リクルートキャリアの社員3名を石巻の医療機関へと派遣。



2014.6

日経ソーシャルイニシアチブ大賞新人賞を受賞。

2012.6

ワークショップ事業開始。

パナソニック向けに、NGOや社会的企業とともに社会課題解決のアイデア創出に取り組むワークショップを開催。留職に次ぐクロスフィールズの基幹事業となる。



Contents

P.04	留職プログラムの5年間
P.05	数字でみる100人の留職者
P.06	対談「留職プログラム参加者の現在」
P.10	5年間/100件の留職プログラム
P.12	2015年度の事業ハイライト
P.14	現地団体へのインパクト
P.16	クロスフィールズのこれまでとこれから
P.18	応援者の方々からのメッセージ
P.19	クロスフィールズの5年間

2012.2

留職者第1号をベトナムへと派遣。

パナソニックの山本尚明氏が初の留職者としてベトナムの社会的企業へと留職。以後、電気機器メーカーを中心企業による留職の導入が加速。



2011.5

クロスフィールズ創業。

東日本大震災の混乱が続くな、共同創業者である小沼・松島の2名が団体を創業。

ICV* Program in 5 years

留職プログラムの5年間

*International Corporate Volunteering

社会課題に取り組み、 未来を切り拓くリーダーの育成を目指して

日本企業の社員が社会課題の現場に飛び込み、
現地の社会的企業やNGOと共に課題解決に取り組む留職プログラム。
クロスフィールズが大切にしているのは、プログラムを通じて、
参加者が「働くことの意義」を実感し、リーダーとして成長すると同時に、
現地のパートナー団体に対して確実に貢献するという2つの目的を達成することです。
過去5年間で100人の留職者がアジア9カ国、66の団体で現地
課題に挑戦し、大きな成果を残してまいりました。

留職先
新興国の
社会的企業／NGO
貧困 エネルギー 教育
環境 衛生 雇用

派遣元
企業

100 Persons in 5 years

これまでの主な導入企業

Panasonic

HITACHI
Inspire the Next

NEC



astellas

JT

Asahi

House

pwc

TERUMO
Designing The Future

KDDI
IT Solution Innovator

Benesse

NTT DATA

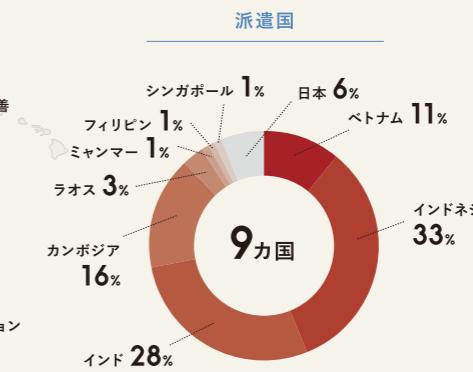
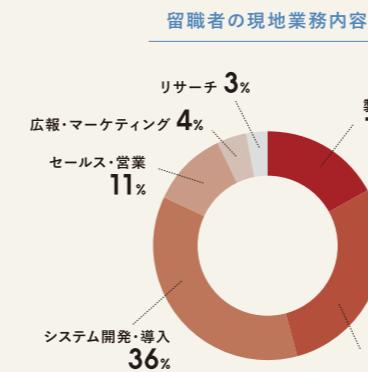
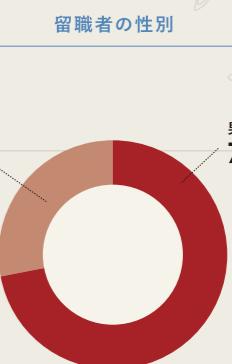
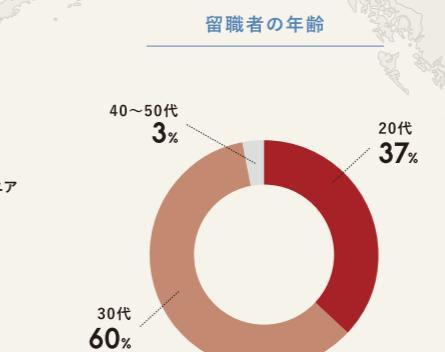
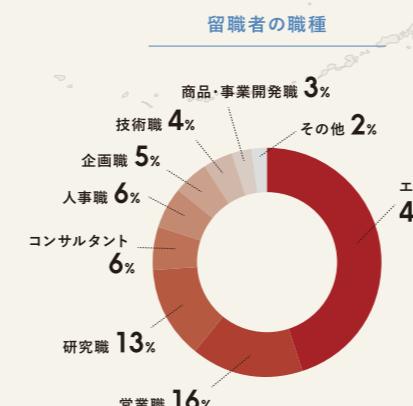
NHK メディアテクノロジー

iSiD
IT Solution Innovator

など、計28社

Program Data of 100 Participants

数字で見る100人の留職者



導入企業の方の声



現地社会を肌感覚で理解できる
「修羅場経験」

(株)日立製作所人財統括本部副統括本部長
(株)日立総合経営研修所代表取締役 取締役社長
田宮 直彦さま



リーダーとしての軸を育てる
圧倒的な気付きと経験

ハウス食品グループ本社株式会社 人材開発部 人材開発課
グローバル人事チームマネージャー
四十万谷 正和さま

創業5周年、おめでとうございます。日立が若手海外派遣プログラムとして「留職」を採用したのは、派遣者の専門性と個性を大切にしながら、現地社会を肌感覚で理解し、自律した人間として一皮剥ける「修羅場経験」を提供してくれるからです。皆さんの熱い想いと志、細やかな心配りに心から感謝し、今後も若者の育成機会を提供してくれることを期待します。

留職では、従来と全く異なる環境で信頼関係を構築し、協力を引き出しながら、課題設定、解決までをやり抜く経験を積むことができます。現地のリーダー達と共に社会課題解決に挑む中で「自身は何のために働くのか、自社の仕事を通じてどのような世界を実現していくか」という根幹に向き合い、リーダーとして大きく成長することができると言えています。

留職プログラム参加者の現在

現地での経験を活かして活躍する2名の事例

2011年度にスタートした留職プログラム。

これまでに参加した留職者は今、

どのようにその経験を活かしているのでしょうか。

リクルートワークス研究所の石原氏を

モデレーターとしてお招きし、

実際に派遣された2人の留職者が、

当時の経験を現在の社内/社外での活動に

どのようにつなげているかについて

対談形式でせまりました。

Nobuyuki Yasukawa

Naoaki Yamamoto

Naoko Ishihara

Cross Talk

NEC

安川 展之氏

日本電気株式会社
データサイエンス研究所所属

2013年7月より、インドの社会的企業Drishteeで半年間
にわたって活動。団体の運営する農村部の小売店向け
の物流網の改善に貢献。開発した購買管理システムは
現在も団体で利用されている。

Panasonic

山本 尚明氏

パナソニック株式会社エコソリューションズ社
スペース&メディア創造研究所所属

2012年、日本初の留職プログラム参加者として約1ヶ月
間ベトナムへ。社会的企業Solar Serveにて、太陽光を
集光する調理器具の製造プロセス改善に取り組んだ。

Recruit Works

石原 直子氏

リクルートワークス研究所
機関紙Works編集長

女性活躍推進、ソーシャルインパクトを出していく社会
リーダー等について研究。企業のコア人材、次世代リー
ダーとなる人々を、日本企業がどのように獲得し、活用す
ればよいのかを解明することに取り組んでいる。

石原：そもそも当時クロスフィールズ（以下CF）の留職プ
ログラムに参加しようと思ったきっかけを教えてください。

安川：社外でNPO支援や社会課題解決のワークショッ
プに参加している中で、企業が社会課題解決をビジネス
に組み込むことができれば、持続可能な社会が作れると
考えていました。その糸口を模索していたときに留職プロ
グラムの社内公募を知り、自ら応募しました。

山本：「現行の自社商品は今後も世の中に必要とされる
のか」という本質的な問い合わせる機会だとピンと

Cross Talk

留職者対談

きました。また、新興国での社会課題解決の現場で一緒に商品を作りたい、従来なかったコンセプト商品を世に送り出すことができれば次世代のスタンダードを作れると考え、挑戦することにしました。

石原：いま振り返ってみて、現地での活動での最も大きな学びとは何でしたか。

山本：留職先のリーダーとの出会いでしょうか。「自分のすべてを賭けられるほどに、その仕事の価値を信じて働いている人」と出会えて、そのときに感じたある種の「悔しさ」が、いまの自分の原動力になっていると思います。

安川：本当に限られたリソースしかない中でも、何としても現場の「困りごと」を解決していくという視点というか、情熱ですかね。



【上】農村部の小売店を団体スタッフとともに精力的に回り、団体の抱える本質的な課題を探る安川氏。【下】製造プロセスの改善に取り組む製品「ソーラークッカー」について、団体のリーダーに対してヒアリングを行う山本氏。

石原：留職で大きな成長があったというお二人ですが、なにがポイントだったのでしょうか。本業でのお仕事とはなにが違っていましたか。

山本：何を対象にどう解決するのかという「スコープ(業務内容)」から、自分で設計したことです。通常の仕事では課題設定はある程度できている上で取り組むことがほとんどなので、そこから始めるというのは、普段は起こり得ないことでした。

安川：それは同感ですね。加えて、現地にいる間、1週間に1度Skypeで打合せをしてくれるクロスフィールズのプロジェクトマネージャーの存在が大きかったです。

石原：プロジェクトマネージャーとはどんな話をしていたのですか。

安川：団体のニーズや本音とのズレがないか、自分が独りよがりになっていないかをいつも話し合っていました。これによって、相手が必要とするアウトプットに近づくことができた気がします。また、自分が直面している困難の意味づけと一緒にやってもらい、「自分の仕事に置き換えたらそれはどういうことか」などと問い合わせてもらうことで、留職中の経験を、帰国後にやるべきことと接続することができました。

石原：留職後数年が経過しましたが、ご自身の仕事に変化はありましたか。

安川：以前は顔認識のアルゴリズムなど技術開発の仕事に関わっていましたが、留職後には、技術と社会をつなぐというコンセプトで業務にあたるソリューションデザインのチームにアサインされました。

石原：技術を一つの要素としてソリューションをデザインする、一段高いレイヤーの仕事に移られたのですね。課題発見・解決の仕事に変わられて、留職の経験は何か役に立っていますか。



対談中の様子。留職での経験と今後の展望について語る安川氏・山本氏の話は尽きることなく、1時間を予定していた対談は2時間以上にも及んだ。

安川：留職で身に付けた「現場」を重視する姿勢が、とても役に立っています。本質的な課題とその解決方法が機能するかどうかは、現場に行き相手のことを知り、何度も仮説検証をしながら理解を深めていく必要があるためです。

山本：自分も大きく変わりました。ベトナム戦争を経験した留職先のリーダーは、社会のために何ができるかという視点で仕事を定義し、お客様に喜ばれたストーリーを語っていました。「自分の仕事が社会の役に立っているという自信があるか?」と問われハッとして、帰国後、自身の持ち場において自分こそが解くべき課題について考え直しました。その結果、自らがリードして新規事業案件を会社に提案することにして、いまはその新規事業を推進することがメインの業務になっています。

石原：自分の仕事が社会の役に立つという実感とともに一段視野が上がり、考え方方が変わるもの、成長し続けている証拠なのではないでしょうか。すばり、いま自分が仕事を通してやらなければいけないと感じていることを教えてください。

山本：パナソニックでは、諸先輩方が脈々と世の中を良くするためにモノを作っていました。その先人たちが作ってきた歴史と想いを、自分自身も背負って働いていきたいです。日本にもまだ解決されていない課題、新しく生まれている課題は沢山あります。この会社で、社会に本当に必要とされるモノやコトをつくり続けるというのが、自分にとってのミッションです。

安川：企業で働いている自分にこそできることは何かを考えながら、会社での仕事でも、社外での課外活動でも、留職の学びをもとに動き続けたいです。いつの日か、NECを社会的企業に変えることが自分のミッションです。

石原：最後に、今後留職に参加するかもしれない人へのメッセージをお願いします。

山本：留職をやりたい人はやることをお勧めしますし、やりたくない人もいてもいいと、僕は率直に思います。ただ、伝えたいのは「挑戦している人と一緒に何かに取り組むことは最高に楽しい」ということです。留職に興味を持つ人は何かしらの課題意識を持っている人だと思うので、自分が信じる道を進んでほしいです。

安川：ぜひ留職に参加してもらい、帰ってきてからは、僕と一緒に会社、日本の産業界の未来を変えていく仲間になってほしいです。仕事と社会課題とを接続できる人が少しでも増えてほしいと思います。



この対談は2016年9月7日にクロスフィールズの事務所で行いました。

100 Project List

5年間/100件の留職プログラム

派遣元企業	留職者の属性	期間	国	受け入れ団体
① バナソニック	30代男性/コンサルタント	1ヵ月間	ベトナム	太陽光を活用した調理器具を開発・販売する社会的企業
② テルモ	20代男性/研究職	2ヵ月間	インドネシア	低所得者層向けの小規模病院運営を行うNGO
③ ベネッセコーポレーション	30代男性/人事職	1ヵ月間	インド	農村部・準都市部向けに英語学習教材を開発・出版する社会的企業
④ 日立ハイテクノロジーズ	20代男性/営業職	1ヵ月間	カンボジア	貧困層の女性に対する職業訓練などを提供するNGO
⑤ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	2ヵ月間	ベトナム	有機農業を通じて零細農民の支援を行う社会的企業
⑥ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	2ヵ月間	ラオス	太陽光を活用した再生可能エネルギーを導入する社会的企業
⑦ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	2ヵ月間	インド	貧困層の子どものためのコミュニティスクールを支援しているNGO
⑧ バナソニック	30代男性/エンジニア	1ヵ月間	インドネシア	コミュニティをベースとした小規模の水力発電を運営するNGO
⑨ バナソニック	30代女性/エンジニア	1ヵ月間	インドネシア	コミュニティをベースとした小規模の水力発電を運営するNGO
⑩ ベネッセコーポレーション	30代女性/企画職	6ヵ月間	インドネシア	貧困層の青少年の健全な成長を支援するNGO
⑪ ベネッセコーポレーション	20代男性/企画職	6ヵ月間	インドネシア	辺境地域の子どもに対して教育を提供するNGO/教育の質向上を支援する教育コンサルティング会社
⑫ NEC	30代男性/研究職	6ヵ月間	インド	農村部における所得向上・コミュニティ支援を行う社会的企業
⑬ NEC	30代男性/研究職	5ヵ月間	インド	障がい者に対する職業訓練及び職業斡旋を提供する社会的企業
⑭ 日立ソリューションズ	30代男性/エンジニア	2ヵ月間	インドネシア	農村地区の貧困層を教育・医療・コミュニティ開発の側面から支援するNGO
⑮ バナソニック	30代男性/エンジニア	1ヵ月間	インドネシア	コミュニティをベースとした小規模の水力発電を運営するNGO
⑯ バナソニック	30代女性/エンジニア	1ヵ月間	インドネシア	コミュニティをベースとした小規模の水力発電を運営するNGO
⑰ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	インドネシア	テクノロジーを通じて農村部に住む貧困層の生活水準向上に取り組む社会的企業
⑱ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	インドネシア	農村部の貧困層に対する伝統工芸品の製作支援・輸出・販売を行うNGO
⑲ 日立製作所(※)	20代男性/エンジニア	3ヵ月間	ベトナム	カー＆バイクシェアリングサービスを展開する社会的企業
⑳ バナソニック	30代女性/営業職	1ヵ月間	インド	農村部の工芸品生産者たちのキャバシティビルドイング・販売支援を行うNGO
㉑ バナソニック	30代女性/企画職	1ヵ月間	インド	貧困層の衛生環境改善を支援するNGO
㉒ 電通国際情報サービス	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	インド	貧困層の女性の自立支援をするマイクロファイナンス団体
㉓ テルモ	20代女性/研究職	2ヵ月間	インドネシア	低所得者層向けの小規模病院運営を行うNGO
㉔ 日立製作所(※)	30代男性/企画職	2ヵ月間	インド	職人・クラフトワーカーの生活支援をするNGO
㉕ 日立製作所(※)	20代男性/エンジニア	2ヵ月間	インドネシア	リプロダクティブヘルスの活動を行うNGO
㉖ 日立製作所(※)	20代男性/エンジニア	2ヵ月間	ベトナム	妊産婦や子どもにフォーカスしたヘルスケアを提供するNGO
㉗ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	2ヵ月間	インドネシア	質が高いメディアの育成と遠隔地への適切な情報伝播を支援するNGO
㉘ 日立ソリューションズ	30代男性/営業職	2ヵ月間	インドネシア	農村地区的貧困層を教育・医療・コミュニティ開発の側面から支援するNGO
㉙ NTTデータ	30代男性/エンジニア	2ヵ月間	カンボジア	貧困層の生活と環境に優しい改良かまどの普及を行うNGO
㉚ NTTデータ	20代男性/エンジニア	2ヵ月間	カンボジア	電化率が低い農村部の住民にソーラーパネルの販売を行う社会的企業
㉛ 日本たばこ産業	20代男性/人事職	3ヵ月間	カンボジア	飲食産業を通じた人材育成により、カンボジア社会への貢献を目指す団体
㉜ 日産自動車	40代男性/エンジニア	2ヵ月間	インド	貧困層にソーラー製品を提供する社会的企業
㉝ 日産自動車	30代男性/エンジニア	2ヵ月間	インド	エネルギー問題解決のためスマートグリッドを開発する社会的企業
㉞ バナソニック	30代男性/エンジニア	1ヵ月間	インドネシア	コミュニティをベースとした小規模の水力発電を運営するNGO
㉟ バナソニック	30代女性/エンジニア	1ヵ月間	インドネシア	コミュニティをベースとした小規模の水力発電を運営するNGO
㉟ バナソニック	30代男性/営業職	1ヵ月間	カンボジア	電化率が低い農村部の住民にソーラーパネルの普及を行う社会的企業
㉟ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	インド	障がい者に対する職業訓練及び職業斡旋を提供する社会的企業
㉟ 日立製作所(※)	20代男性/エンジニア	3ヵ月間	インド	障がい者に対する職業訓練及び職業斡旋を提供する社会的企業
㉟ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	カンボジア	農村の人々の生活向上と自立のための支援を実施するNGO
㉟ 日立製作所(研究開発グループ)	30代男性/研究職	3ヵ月間	インド	貧困層向けに自然エネルギーを活用した発電システムを開発・販売する社会的企業
㉟ リクルートキャリア	20代女性/営業職	1ヵ月間	国内・石巻	東北石巻市で在宅医療を中心とした高齢社会のプラットフォーム作りを目指す診療所
㉟ リクルートキャリア	30代男性/営業職	1ヵ月間	国内・石巻	東北石巻市で在宅医療を中心とした高齢社会のプラットフォーム作りを目指す診療所
㉟ リクルートキャリア	20代女性/営業職	1ヵ月間	国内・石巻	東北石巻市で在宅医療を中心とした高齢社会のプラットフォーム作りを目指す診療所
㉟ バナソニック(AVCネットワークス社)	30代男性/人事職	3ヵ月間	ベトナム	人身売買や家庭内暴力の被害にあった女性・若者に職業訓練をする社会的企業
㉟ 博報堂	20代男性/営業職	2ヵ月間	ベトナム	灌漑整備や農業用水供給等による農村支援を行うNGO
㉟ KDDI	30代女性/企画職	3ヵ月間	インドネシア	農村地区的貧困層を教育・医療・コミュニティ開発の側面から支援するNGO
㉟ 日立製作所(モノづくり戦略本部)	30代男性/技術職	2ヵ月間	インド	農村向けATMを開発・製造する社会的企業
㉟ バナソニック	30代男性/エンジニア	1ヵ月間	インド	ICT技術を使って農村の医療改善に取り組む社会的企業
㉟ バナソニック	50代男性/エンジニア	1ヵ月間	インド	ICT技術を使って農村の医療改善に取り組む社会的企業
㉟ ハウス食品グループ本社	30代男性/研究職	3ヵ月間	インドネシア	地方の若者の力で農村振興に取り組むNGO

派遣元企業	留職者の属性	期間	国	受け入れ団体
㉟ 日立システムズ	20代男性/商品・事業開発職	2ヵ月間	インドネシア	農村部の貧困者層に対する伝統工芸品の製作支援・輸出・販売を行うNGO
㉟ 日立製作所(※)	20代男性/エンジニア	2ヵ月間	インド	貧困層向けに自然エネルギーを活用した発電システムを開発・販売する社会的企業
㉟ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	インド	知的障がい者の経済的自立支援に取り組む社会的企業
㉟ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	ベトナム	障がい者の経済的自立支援に取り組む社会的企業
㉟ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	フィリピン	貧困層の生活向上・経済の発展を促すため、MFI・社会的企業の支援を行う団体
㉟ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	インドネシア	小児がんやHIVに苦しむ貧困層の子どもたちに対して緩和ケアを提供するNGO
㉟ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	シンガポール	ソーラーランタンを使った女性の起業家育成と照明の普及を行なう社会的企業
㉟ 非公開(電気機器メーカー)	20代男性/技術職	4ヵ月間	インド	エコフレンドリーな調理器具の製造・販売を通じて環境問題に取り組む社会的企業
㉟ 非公開(電気機器メーカー)	20代女性/営業職	4ヵ月間	カンボジア	デザイナーを育成・雇用し、ジュエリーの販売・展開を行なっている社会的企業
㉟ トライアンフ	20代男性/コンサルタント	3ヵ月間	カンボジア	電化率が低い農村部の住民にソーラーパネルの販売を行なう社会的企業
㉟ ブライスウォーター・ハウスクーパーズ	30代男性/コンサルタント	4ヵ月間	インドネシア	オーガニックフードの生産・販売を行なう社会的企業
㉟ ブライスウォーター・ハウスクーパーズ	30代女性/コンサルタント	3ヵ月間	インドネシア	貧困層の青少年の健全な成長を支援するNGO
㉟ 非公開(コンサルティングファーム)	20代男性/コンサルタント	3ヵ月間	インド	農村向けATMを開発・製造する社会的企業
㉟ 非公開(コンサルティングファーム)	20代女性/コンサルタント	4ヵ月間	インドネシア	環境負荷の低い持続可能な社会の実現に向け廃棄物問題に取り組む社会的企業
㉟ NTTデータ	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	ラオス	貧困層を対象に小児病院を運営するNGO
㉟ NTTデータ	20代男性/営業職	3ヵ月間	カンボジア	電化率が低い農村部の住民にソーラーパネルの普及を行なう社会的企業
㉟ バナソニック	30代女性/営業職	1ヵ月間	インドネシア	農村部の貧困者層に対する伝統工芸品の製作支援・輸出・販売を行うNGO
㉟ 味の素	30代男性/研究職	3ヵ月間	インド	貧困層の子どもの栄養改善・教育に取り組むNGO
㉟ 味の素	40代男性/研究職	3ヵ月間	カンボジア	使用済みクリッキングオイルからバイオマス燃料を作り出す社会的企業
㉟ ハウス食品グループ本社	20代男性/営業職	6ヵ月間	インドネシア	カカオ農家の生活向上に取り組む社会的企業
㉟ 日本たばこ産業	20代男性/人事職	3ヵ月間	ベトナム	零細農家の支援と、都市部消費者の安全な食物へのアクセス向上を行なう社会的企業
㉟ 日産自動車	30代男性/技術職	2ヵ月間	インド	農機開発を通じて小規模農家の生産性・生活向上を目指す社会的企業
㉟ 日産自動車	30代男性/技術職	2ヵ月間	インド	貧困層向けに自然エネルギーを活用した発電システムを開発・販売する社会的企業
㉟ アサヒグループホールディングス	20代男性/研究職	2ヵ月間	カンボジア	栄養価の高い飲料や栄養補助剤の製造・販売を通じて栄養改善に取り組む社会的企業
㉟ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	カンボジア	電化率が低い農村部の住民にソーラーパネルの普及を行なう社会的企業
㉟ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	インド	ICT技術を使って農村の医療改善に取り組む社会的企業
㉟ 日本たばこ産業	20代女性/人事職	3ヵ月間	カンボジア	貧困層の女性を雇用・育成し、ジュエリー・ニット製品の生産・販売を行なっている社会的企業
㉟ 電通国際情報サービス	30代女性/エンジニア	3ヵ月間	ベトナム	カー＆バイクシェアリングサービスを展開する社会的企業
㉟ 日立システムズ	20代女性/営業職	2ヵ月間	ベトナム	孤児や障がい児にアート教室を実施し、子どもたちの描いた絵を使った商品の販売をする社会的企業
㉟ バナソニック	30代男性/研究職	1ヵ月間	インド	再生可能エネルギーを活用し、インド全土の電力化を目指す社会的企業
㉟ バナソニック	30代女性/研究職	1ヵ月間	インド	再生可能エネルギーを活用し、インド全土の電力化を目指す社会的企業
㉟ ハウスウェルネスフーズ	30代女性/商品・事業開発職	1ヵ月間	国内・北三陸	北三陸とその周辺地域の食材(主に水産)の加工を行い、ブランド化して全国へ販売する企業
㉟ ハウス食品グループ本社	20代男性/商品・事業開発職	1ヵ月間	国内・北三陸	北三陸とその周辺地域の食材(主に水産)の加工を行い、ブランド化して全国へ販売する企業
㉟ ハウス食品	30代男性/営業職	1ヵ月間	国内・北三陸	北三陸とその周辺地域の食材(主に水産)の加工を行い、ブランド化して全国へ販売する企業
㉟ バナソニック	20代女性/人事職	6ヵ月間	インドネシア	貧困層の青少年の健全な成長を支援するNGO
㉟ バナソニック	30代男性/研究職	6ヵ月間	ミャンマー	エンジニアへの実践的な起業家教育を実施する社会的企業
㉟ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	2ヵ月間	インドネシア	環境負荷の低い持続可能な社会の実現に向け廃棄物問題に取り組む社会的企業
㉟ 日立製作所(※)	20代男性/エンジニア	3ヵ月間	ラオス	貧困層を対象に小児病院を運営するNGO
㉟ 日立製作所(※)	20代女性/エンジニア	3ヵ月間	インド	知的/心の障がいを持つ子どもたちに教育を提供するNGO
㉟ 日立製作所(※)	20代女性/エンジニア	2ヵ月間	カンボジア	名産品や工芸品の生産・販売を通じて、雇用創出と家計向上を支援する社会的企業
㉟ 日立製作所(※)	20代男性/エンジニア	3ヵ月間	インドネシア	マッチングプラットフォームを通じ、障がい者の雇用創出を行なう社会的企業
㉟ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	インド	貧困層や社会的弱者のヘルスケア・公衆衛生に包括的なアプローチを取り組むNGO
㉟ 日立製作所(※)	30代男性/エンジニア	3ヵ月間	インドネシア	貧困層にアクセス可能な安価な浄水フィルター設備を製造・販売する社会的企業
㉟ 日立製作所(※)	30代女性/エンジニア	3ヵ月間	インドネシア	持続可能なエコツーリズムツアーや運営する社会的企業
㉟ アステラス製薬	20代女性/営業職	4ヵ月間	インドネシア	職業訓練やヘルスプログラムの提供を通じ、貧困層の妊娠支援を行う社会的企業
㉟ アステラス製薬	20代女性/営業職	4ヵ月間	カンボジア</	

Program Highlight 2015^{/6}-2016^{/5}

2015年度の事業ハイライト

2015年度は32人の留職者が28団体での課題解決に取り組むとともに、全5回のワークショップに83の方が参加しました。

International Corporate Volunteering 留職プログラム

in Cambodia

研究者としての知見を活かし、カンボジア社会の生活改善に貢献

アサヒグループホールディングス / 研究職 / 前川 祥太郎さま / 派遣期間2カ月

前川さんが派遣された社会的企業では、栄養価の高い飲料や、栄養補助剤の製造・販売を行うことを通じて、カンボジアの人々の栄養改善、生活改善に取り組んでいました。前川さんは研究者として豆乳商品の新規開発や品質管理の改善、栄養剤となるスピルリナの培養施設における生産効率の改善、砂糖の代替品となるステビア開発調査等を通じて派遣先企業に大きく貢献されました。派遣先団体の代表から起業家としての熱意と行動力を受け継ぎ、どんなことでもまずは一歩踏み出すことの大切さを実感された前川さん。帰国後は社会に寄与する商品開発を、と新規提案も意欲的に行ってています。



in Vietnam

サービス向上とプロセス整備により、団体の顧客基盤の拡大に大きな成果

日本たばこ産業株式会社 / 人事職 / 藤田 尚宏さま / 派遣期間3カ月

農家に対する安全管理や自立支援と、都市部の消費者の安全な食物へのアクセス支援を行う社会的企業に派遣された藤田さん。営業としての経験を活かし、現地の飲食店や日本人コミュニティを中心に、個人顧客の拡大や、顧客拡大に向けた注文・販売サービスの向上、プロセス整備に取り組みました。「記録よりも記憶に残る貢献を」をモットーとし、「真摯さ」と「謙虚さ」を大切に活動した結果、留職先リーダーからは「彼の働きに影響を受けて、仕事に対する姿勢や、より良いものを提供しようという気持ち、さらにはスタッフ間の絆が強まり、組織としての自信がより強くなったと感じる」との言葉もいただき、大きな成果を上げました。



in India

ICT技術でインド農村部の医療改善に挑戦し、エンジニアとして大きく成長

株式会社日立製作所 ITプロダクト統括本部 / エンジニア / 南竹 俊介さま / 派遣期間3カ月

南竹さんが派遣された農村の医療改善に取り組む社会的企業では、ICT技術を使って遠隔医療ソリューションを提供していました。派遣先企業がAndroidアプリの開発・提供を目指していた中で、南竹さんはAndroidのGUI[※]の設計を担いました。一人でも多くの患者の命を救うことを目的とし、患者を素早く診断できるように入力プロセスを簡素化、また、患者の取り違えが発生しているという課題に目をつけ、その防止のためにQRコードを導入しました。南竹さんが実装まで行ったGUIに対し、派遣先企業からは、「特にQRコードは素晴らしい!一刻も早くこのGUIを使った製品をリリースしたい」と喜びの声を頂きました。南竹さんは、「全力で自分に出来ることをやり続ければ、社会を少しでもよくすることができる」と語り、帰国後は、社内のチームメンバーも情熱を持って仕事が出来るようにしたいと、常に全力で考え行動に移し続けています。(※Graphical User Interface)



in Japan

3名の専門性を結集し、北三陸ブランドの持続可能な発展に向けた仕組み作りを推進

① ハウスウェルネスフーズ株式会社 / 新谷 良子さん / 開発職 ② ハウス食品グループ本社株式会社 / 渡邊裕大さん / 新規事業
③ ハウス食品株式会社 / 三宅勇緒さん / 営業職 派遣期間 各1カ月(合計3カ月)

主に水産物の加工・商品化を行い、北三陸ブランドとして販売する岩手県の企業にリレー形式で派遣された新谷さん、渡邊さん、三宅さん。3名はチームとしてそれぞれの強みを生かし、地域の素材を生かした商品開発や食育企画の実施、北三陸ブランド強化のための販路開拓や戦略立案、組織強化のためのアドバイス等を実施。地域の方々と共に地域課題に向き合いながら、「持続可能な仕組み作り」を目指して団体と地域に貢献しました。この留職を通じてそれぞれが「自分のリーダーシップ」を見つけ、「自分が人を変えるのではなく、自分が変わると、自分が行動する」(新谷さん)、「熱い想いとミッションを持ち、率先して実行する」(渡邊さん)、「苦しみも楽しみに変えて仕事をする」(三宅さん)などの想いを胸に、今はそれぞれの部署で活躍されています。



in Indonesia

団体が取り組む活動の映像制作を通して、対外発信力向上に貢献

株式会社NHKメディアテクノロジー / 放送技術職 / 山崎 優輝さま / 派遣期間3カ月

小児がんやHIVに苦しむ貧困層の子どもたちに対し緩和ケアを提供するNGOに派遣された山崎さん。カメラマンとして派遣先団体の広報・アドボカシー活動用の写真や映像を多数据影・編集されました。また、帰国後も、団体スタッフ自らが映像や写真を撮影・編集できるよう、技術継承にも注力した結果、団体の対外発信力向上に貢献されました。「国際協力がしたい!」という強い想いを胸に留職に挑んだ山崎さん。留職を経た現在は、自分が今いる場で精一杯仕事をすること、人や社会を動かす番組を作ること、それが社会貢献であり、ひいては国際協力に繋がっている、と考えるようになったとのこと。今も様々な番組制作を通して自身の社会貢献を体現されています。



Workshop 社会課題解決ワークショップ

社会課題を起点にビジネスを行う上での実践的な知見を得ることを目的とした企業向けプログラムです。社会課題の現場に精通するNPOのリーダーやスタッフをゲストに迎え、各企業の本業を活かし、社会課題を解決する事業アイデアの創出に取り組みます。丸1日かけて集中的に行うプログラムから、2~6カ月にわたって開催されるプログラムまで、幅広い形式のワークショップを運営しています。

2015年度に実施したワークショップ

企業名	参加人数	期間	テーマ
リクルートキャリア	15	3カ月	日本の地方における雇用の課題 ~南相馬への現地視察を通じて~
パナソニック	26	1日	社会起点での事業創り入門 ~新興国の社会課題から~
パナソニック	12	6カ月	ソーラーランタン事業に学ぶ、インド農村部での社会課題解決型ビジネス
ヤマハ発動機	20	3カ月	インドネシアのBoPにおける社会課題解決
パナソニック	10	1日	アフリカの社会課題とソーシャルビジネスの考察
合計	83		

5年間のワークショップ実績		
年度	件数	参加人数
2011	2	30
2012	4	61
2013	4	56
2014	6	98
2015	5	83
合計	21	328

現地団体へのインパクト

クロスフィールズが協働するアジアの社会的企業やNGOとのネットワークは、アジア地域を中心に、数百団体にのぼります。そのうち、留職プログラムと一緒に実施した団体は66団体、ワークショップ事業で協働した団体は10団体以上にのぼります。2015年度にはインド・インドネシアの2団体の方々を日本へ招聘し、同じテーマで活動する日本の団体や機関への紹介や協働のサポート等を行いました。クロスフィールズは今後も現地団体と更なる協働を行っていきます。

海外団体との新たな協働の形

Greeneration Indonesiaのケース

2016年6月9~18日に、Global Shapers CommunityのメンバーでもあるGreenaration Indonesia(以下、GI)代表 Mohamad Bijaksana Junerosano氏をワークショップの講師として招聘、代表以下団体メンバー3名が来日しました。ワークショップ開催にあわせ、GI側の要望に基づき、東京・大阪・徳島他で環境問題に取り組む様々な機関11団体への訪問と意見交換の機会をアレンジする等、両国の環境問題に関するパートナーシップ構築をサポートしました。

また、クロスフィールズ初となる海外ゲスト招聘イベントとして、「インドネシアと日本の社会起業家から学ぶ セクターを超えた連携による社会課題解決の可能性」を開催し、GIによる日本での情報発信の機会を提供しました。イベントには徳島・上勝町NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー(ZWA)代表坂野晶氏も登壇していただき、両国での環境問題への取り組みについてクロスフィールズ副代表松島のモーデレートのもとでパネルディスカッションも行いました。

GIメンバーからは、「日本での学びから、GIの今後の戦略のみならず、インドネシアの環境問題に関する官民連携や法律のあり方に関する示唆の機会になつた」との言葉をいただきました。また、上記イベント参加者からは、国境を超えて協働して社会課題解決に取り組むことを期待するコメントが多数寄せられました。クロスフィールズは過去5年間で数百の新興国のNGO/社会的企業とのネットワークを構築してきました。今後は、留職やワークショップでの協働に留まらず、現地団体のニーズに基づいた様々なサポートを行っていくことにも挑戦していきます。

Greeneration Indonesia

インドネシアで環境教育を実施する社会的企業。2011年以降5年間にわたり、クロスフィールズのパートナー団体として留職プログラム(過去3回)やワークショップ(過去1回)で協働しています。

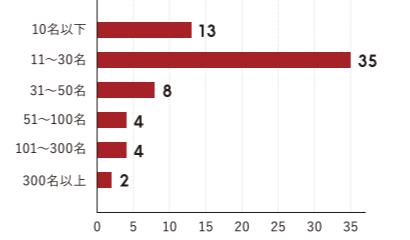


【上】訪日中に意見交換をした団体の方々と記念撮影をするGIのメンバー(前列)。【下】6/17にHUB TOKYOで開催されたイベントでのパネルディスカッションの模様。

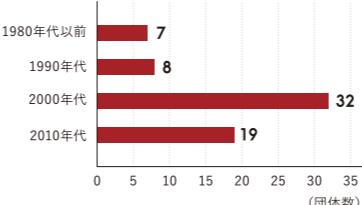
Program Data of 66 Partner Organizations

数字で見る留職プログラム協働団体(66団体)のデータ

団体規模(スタッフ人数)



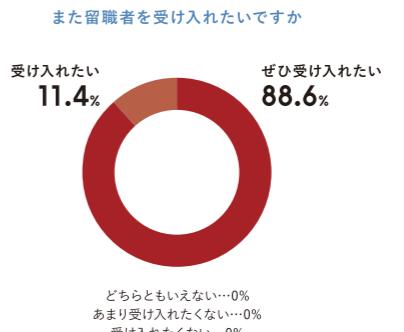
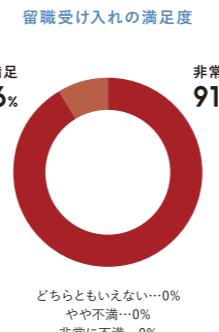
設立年度



活動分野



アンケート結果(35団体が回答)



留職受け入れにより、団体にとってどんな利点がありましたか(複数回答)	回答数
製品・サービスの開発・改善	24
組織能力の強化	18
人材育成	18
オペレーション改善・効率性向上	16
戦略策定	4
その他(異文化理解・日本流の働き方の学び)	5

受け入れ先団体の方の声



留職者が最大限貢献できるよう
プログラム完了までサポートする
コミットメントの高さに感謝
Rachel House代表(インドネシア)
Lynna Chandraさま



全ての関係者と真のパートナーシップ
を築き、素晴らしい成果を
提供し続けている素晴らしい団体
v-shesh共同創業者(インド)
Shashank Awastiさま

ニーズに合致する留職者を慎重に選定し、留職者が団体に最大限貢献できるよう、プログラム完了まで常に丁寧にサポートするコミットメントの高さに心から感謝しています。これまで2名の留職者を受け入れ、データベース管理と活動紹介ビデオの製作という2分野で多大なる支援を得ることができます。彼らは癌やHIVを抱えて生きている子どもたちに対する活動にも参加し、子どもたちの残された人生をより豊かにしてくれました。心から感謝しています!

クロスフィールズのパートナー団体であることがとても嬉しいです。エネルギッシュで才能あふれるチームだからこそ、5年間で素晴らしい成果を成し遂げられたのでしょう。留職者・派遣元企業・受入団体の全てのニーズを理解し、多大なエネルギーをかけ適切なマッチングを行っています。プログラムに一貫して関わり、全関係者に対し素晴らしい成果を提供し続けること、そして受入団体と企業双方と真のパートナーシップを築いていること、全てが賞賛に値します。更なる活躍を願っています。

※2015年9月の国連総会で採択された「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられている17の目標(持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals))



→
2016
クロスフィールズのこれまでとこれから

2015年7月、クロスフィールズ4周年記念パーティーにてパートナー企業・団体やサポーターの皆さんと一緒に



2016年5月、オフィスのある町原ビル前でのメンバー集合写真

目指す世界の実現にこだわり、 新たな挑戦も行うステージへ。

これまでの5年間、温かい応援をありがとうございました。おかげさまで、クロスフィールズは「留職」というこれまでなかった仕組みを世の中に提示し、100人の企業人を社会課題の現場へと送り出すことができました。まだまだ課題だらけですが、社会貢献とビジネスの世界とに、小さな風穴を空けることはできたのではないかと自負しています。しかし、目指す世界を考えれば、まだまだ道のりは遠いですし、やるべきことは沢山あります。今後は、留職の事業を中心としながらも、さまざまな新しい取り組みにも挑戦をし、あるべき世界の実現にこだわって進んでいきたいと思います。これからの道のりはますます険しくなるかとは思いますが、決して諦めず、これからも、皆さんとともに力を合わせて進んでいきたいと思っています。どうぞ今後とも、応援をよろしくお願いいたします。

社会課題解決に取り組む団体や企業とともに、 社会にできることを一歩一歩形に。

2011年5月に創業したクロスフィールズも早いもので5年。最初はたった2人と、その周りで応援してくれる方の“想い”だけでしかありませんでした。そこから「企業のスキル・技術を持って社会に貢献したい」「それにより企業やビジネスリーダーとしての社会における在り方を高めていきたい」と一緒に願い、留職やワークショップに参加してくれた方はのべ428人、そんな日本企業に期待を持ってくれ彼らの力を活用しながら社会課題解決に取り組むアジアの社会的企業/NGOは66団体にものぼり、一緒に夢を見て歩んでくれた方達のお陰で、想いを形に変えて行くことができました。これからも、その仲間となってくれた方たちと一緒に、より企業と社会的企業/NGOそれぞれにとって、そして社会にとって、クロスフィールズが出来ることを一歩一歩、形にしていきたいと思います。



共同創業者・代表理事
小沼 大地
Co-Founder and CEO
Daichi Konuma



共同創業者・副代表
松島 由佳
Co-Founder and Vice President
Yuka Matsushima

クロスフィールズでは今後の中期的な戦略として、 以下のような4つの事業を柱として今後の活動を展開していくこうと議論しています。

実際の社会の状況や事業の状況によっては大幅に計画を変更する可能性もありますが、今後も社会の変化をとらえながら、「未来を切り拓く先駆者」として、自分たちが信じる価値を形にしていけるような事業に取り組んでいきます。

① 留職 / ワークショップ事業

国内外で実施する留職/ワークショップの質を高めつつ規模を拡大していく。それとともに、特にプログラムの卒業生へのサポートを強化することで社会的インパクトを最大化する。

② 社会起点経営推進事業

企業の幹部・意思決定者層を対象とした事業を展開し、企業においても「社会のために働く姿勢」や社会的インパクトが評価され、社会起点での事業経営がより推進される環境をつくる。

③ ソーシャルセクター支援事業

NPOや社会的企業といったソーシャルセクターの事業体とそこで働くリーダーたちのニーズに向き合い、企業・行政や他国の団体などのリソースと橋渡しすることで支援していく。

④ アドボカシー事業

講演・メディア露出や、行政に対する働きかけなどを通じ、クロスフィールズの掲げるVISIONとそこに至るためのステップを社会全体に対して発信していく。

Message from Supporters

応援メッセージ

クロスフィールズの活動に賛同する
幅広い分野の方々からメッセージを頂きました。



企業の中では決して味わえない経験。私は「留職」を応援します。

志賀 俊之さま / 日産自動車株式会社 副会長・産業革新機構 代表取締役会長

知らぬ地の住民の困りごとを自らの知識と技能で解決する。頼る人は自分しかおらず、困っている人を置いて逃げ出しきることも出来ない。企業の中では決して経験のできない素晴らしい経験だ。社会に役立つことの意義を学び、自分や仲間たちだけで成し遂げた達成感が味わえる。私はクロスフィールズの「留職」プログラムを応援します。



リーダーシップの訓練と、青臭い想いを暖め直すための場所。

米倉 誠一郎さま / 一橋大学イノベーション研究センター教授

21世紀の日本にとって最も必要なスキルは、自分で課題を探し出し、仮説を立て、自ら解決策を提示し、周囲の人を巻き込みながらアクションをとる能力です。これをリーダーシップと呼ぶのでしょうか、能力であって、訓練により習得できるものです。決して天賦の才能ではありません。コアコンセプトである「留職」は、まさにこうした能力向上を実践する場です。さらに若くて熱かった青臭い想いを暖め直す場所なのです。



日本企業と新興国との課題を高次元のwin-winで解決。素晴らしい！

岩佐 文夫さま / DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー 編集長

日本企業の課題はリーダーシップ人材の不足。一方の新興国は経済成長につながる技術の不足が課題。「留職」プログラムは、この両者の課題を高次元のwin-winで解決する仕組みなどが素晴らしい。土台となる動機にはピュアな志があり、それを深遠な思考と前向きな実行力で実現させる。取り組み自体が、日本企業のロールモデルだ。



留職で育ったリーダーから社会の変革を！

伊賀 泰代さま / キャリア形成コンサルタント

創業5周年おめでとうございます。リーダーシップは組織の長だけでなく事業の前線で日々奮闘されるすべての方に求められています。天性の資質としてではなく“学び鍛えられるスキル”としてリーダーシップを習得できる留職プログラムから、これからの社会の変革を担う数多くのリーダーが生まれることに期待しています。



クロスフィールズの成長は日本の成長、さらに世界の発展に直結する！

池田 洋一郎さま / 財務省職員、官民協働ネットワークCrossover創設者／スタッフ代表

緻密に作り込まれた仕組みと、志を共にする仲間達の熱い想いをブレンドしながら、企業-NPO-行政、あるいは日本-途上国との間にある文化、言語、価値観の壁を越えて活躍できるリーダーを育て、つなげていく活動を心から応援しています。クロスフィールズの成長は日本の成長、さらに世界の発展に直結する！そう信じています。



次代を切り拓く存在としてのクロスフィールズに今後も期待。

宮城 治男さま / NPO法人ETIC. 代表理事

創業当時、小沼さんと松島さんにお会いして、こういうキャリアの若者が、NPOというかたちで社会を変えたいと挑む姿に、まさに次代を切り拓く存在となる期待を強く持ちました。そして今やこの組織に集う皆様が、自ら体現しつつ、新しい人の流れをこの領域に創り出して下さっていることに、心から感謝をしたいと思います。



次の5年間でも、更なる事業と社会的インパクトの拡大を！

Romy Cahyadiさま / Executive Director, UnLtd Indonesia

クロスフィールズは、日本企業とで働くビジネスパーソンたちでなく、アジアの国々で活動する社会的企業にもベネフィットを提供するという、ブルーオーシャン戦略とも呼べる新たなソーシャルビジネスを生み出してきました。次の5年間でもクロスフィールズが更に事業と社会的インパクトを拡大することを願っています。

Team Cross Fields

クロスフィールズの5年間

役員

代表理事 小沼 大地

理事 松島 由佳

理事 岡本 佳美 株式会社アム代表取締役、認定NPO法人フローレンス

理事 古森 剛 株式会社CORESCO代表取締役、一般財団法人はなそ基金代表理事、マーサージャパン株式会社シニアフェロー

理事 杉浦 元 エリオスキャピタル株式会社 代表取締役

監事 川合 弘毅 公認会計士

監事 木下 万暁 弁護士



2016年6月、三浦海岸で行った2泊3日の職員合宿にて

268回

メディア掲載(2011~2015年度)

98回

新聞・雑誌

日本経済新聞、朝日新聞、日刊工業新聞、信濃新聞、DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー 等

136回

ウェブ

日経BIZアカデミー、政府広報オンライン、リクルートワークス研究所 等

98回

テレビ・ラジオ

テレビ東京「ガイアの夜明け」、BSジャパン「日経プラス10」 等

134回

講演・イベント・受賞歴(2011~2015年度)

講演

経済同友会主催講演会、HR Japan Summit 基調講演、日本経済新聞社主催講演会
日本財団主催講演会、経団連主催講演会、日経Bizアカデミー×グローバル
世銀総会 Civil Society Policy Forum、Global Entrepreneurship Week Japan 2012 等

15回

イベント

企業向けフォーラム、企業間情報交換会、CSVフォーラム共催
ソーシャルビジネスセミナー共催、留職者アラムナイの会 等

8回

受賞

第2回日経ソーシャルイニシアチブ大賞 新人賞、第2回日本HRチャレンジ大賞 優秀賞
日本的人事部HRアワード優秀賞、Japan Venture Awards グローバル人材育成支援 特別賞 等

収支報告(2011~2015年度)

科目	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
収入	事業収入	2,026,156	39,570,017	77,654,611	91,760,257
	受取会費	272,000	1,044,000	1,205,500	918,500
	受取寄付金	2,843,900	185,585	30,000	31,000
	受取助成金等	1,040,000	940,000	0	6,807,760
	その他(受取利息等)	2,642	448,905	426,352	2,833,480
当期収入合計	6,184,698	42,188,507	79,316,463	102,350,997	124,922,391
支出	事業費	3,072,218	26,137,470	53,466,450	83,197,662
	管理費	1,536,096	3,438,054	6,432,745	6,703,000
	法人税等	40,800	2,653,200	6,101,500	494,300
	当期支出合計	4,649,114	32,228,724	65,980,695	116,553,276
収支	当期純損益	1,535,584	9,959,783	13,335,768	11,956,035
前期繰越正味財産		-	1,535,584	11,495,367	24,831,135
次期繰越正味財産		1,535,584	11,495,367	24,831,135	36,787,170
					45,156,285

注1)事業費は、主に人件費、旅費交通費、保険料、支払報酬料、広告宣伝費、消耗品費、会議費など

注2)管理費は、主に地代家賃、支払報酬料、水道光熱費、支払手数料、消耗品費など

監事署名



クロスフィールズの創業に至る物語と
留職者の方々の実体験を織り交ぜ、
「情熱と想いを持って働くこと」をテーマとした書籍を
代表・小沼が出版しました。

働く意義の見つけ方

仕事を「志事」にする流儀

小沼 大地 (著)

ダイヤモンド社 / 2016.9.2刊行



特定非営利活動法人クロスフィールズ
〒141-0031 東京都品川区西五反田3-8-3 町原ビル4F
TEL:03-6417-4804 E-MAIL: info@crossfields.jp

クロスフィールズ

検索

<http://crossfields.jp/>

CROSS FIELDS